

〔特集〕

平成20年度重点施策について

岡山県農林水産部畜産課

昨今の畜産は、飼料価格の高騰、担い手の減少、国際競争力の激化、環境との調和、さらには、BSEや高病原性鳥インフルエンザ等に対する予防衛生及び危機管理体制の強化など多くの課題を抱えています。

このため県では、生産コストの低減と生産性向上を図りながら、活力と持続性に富んだ力強い経営体を育成するとともに、消費者が求める安全で高品質な畜産物の生産を基本に、酪農肉用牛生産近代化計画等に沿って、本年度は次の施策を積極的に推進することとしています。

1 酪農対策

牛群検定の普及促進による乳用牛の改良やカウコンフォートに配慮した飼育環境の改善整備等により生産性の向上を図るとともに、公共育成牧場や雌雄産み分け用選別精液等の活用を図りながら、乳用後継牛を県内で安定的かつ効率的に確保できる体制づくりに努めます。

○乳牛快適生産性向上対策事業（新規）

乳量や乳質の向上が期待される、カウコンフォートに配慮した飼育環境の改善整備を進め、消費者が求める「高品質で美味しい牛乳」の生産性を高め、産地間競争に打ち勝つ強い酪農生産基盤の形成に努めます。

○「みんなの牧場へ」ステップアップ事業（新規）

公共育成牧場の機能を見直し、再編整備をさらに進めることにより、効率的な飼養管理ができる体制へと転換するとともに、新たな

事業展開により地域への貢献機能を加え、地域みんなの牧場へステップアップを図ります。

2 肉用牛対策

受精卵移植やF1雌1産取り肥育技術を活用した和牛増産や、産肉性の高い種雄牛づくりのほか、地域内一貫生産体制の拡大、放牧による省力化などを推進します。併せてトレーサビリティシステムの充実による「おかやま和牛肉」の全国ブランド化を推進します。また、肉用牛入門講座の受講生を円滑に就農に誘導する等、畜産の担い手確保を図ります。

○畜産担い手確保対策事業（肉用牛新規就農支援事業）（拡充）

畜産経営の優れた担い手育成確保を目的に、定年帰農者や他産業からの新規就農希望者等を対象とした肉用牛入門講座や新規就農者等を対象とした就農支援ゼミの開講、離農跡地や経営移譲希望施設を円滑に継承させるシステムの構築、さらには妊娠牛の供給体制を確立するなど、様々な方向から新規就農を支援する体制を整備することにより、畜産の担い手確保を図ります。

3 養豚対策

優良種豚の導入、省力的な飼養管理等による低コスト生産を推進するとともに、消費者のニーズや安全安心確保に対応するため、SPF豚、黒豚等の高品質肉豚生産推進に取り組みます。さらに、海外へ「おかやま黒豚」を積極的にPRするとともに、学校給食への供給を行い、食育や地産地消を推進します。

4 養鶏・養ほう対策

養鶏については、効率的、衛生的な飼養管理を推進し、安全安心な鶏肉・鶏卵の供給と経営安定に努めます。

養ほうについては、耕種農家との連携によるみつ源増殖と円滑な転飼調整に努めるとともに、安定的なみつ源確保とはちみつの生産拡大を推進します。

5 飼料対策

耕畜連携によるネットワークづくりを進め、県南の水田地域で生産した良質粗飼料を県北の畜産地帯へ円滑に供給する広域流通体制の整備を進めるとともに、稲発酵粗飼料の効率的な生産・利用体系の確立に努め、飼料自給率の向上を図ります。

また、林地や耕作放棄地等を再編整備するとともに、担い手への土地集積を進め、飼料生産コストの低減を図り、飼料基盤に立脚した生産性の高い畜産経営体の確立を図ります。

○水田を活用！高品質畜産物生産対策事業（新規）

県南の豊富な水田資源を活用して生産した稲発酵粗飼料等の良質粗飼料を、県北の畜産地帯へ円滑に供給する広域流通体制の整備を進め、良質で低コストな県産粗飼料を利用した高品質な県産畜産物の生産振興を図ります。

6 家畜衛生対策

口蹄疫、BSE、高病原性鳥インフルエンザなどの海外悪性伝染病に対し、家畜保健衛生所を中心に、関係機関が一体となって、危機管理体制の整備や監視体制の一層の強化を図ります。また、ヨーネ病については、これまでに発生農家での清浄化対策が実証されつ

つあるため、引き続き現在の検査体制を継続し、清浄化を推進します。

7 畜産環境対策

家畜排せつ物法に適切に対応するため、引き続き家畜排せつ物処理施設の適正管理について指導を徹底し、環境問題発生未然防止を図ります。また、土壌や作目に適した堆肥施用技術システムと高品質で利用性の高い堆肥を開発するとともに、堆肥散布作業受託組織の育成、さらにはリース事業の活用等により、たい肥の利用を促進し環境と調和のとれた畜産を推進します。

8 技術開発

○生産性向上のための哺育・育成システムの構築（新規）

安全な粉末初乳を用いた哺育技術や哺乳ロボットに適応した効率の良い哺乳プログラムを開発するとともに、稲発酵粗飼料、麦わらサイレージ等を用いた育成期の自給飼料活用技術を確立することで、効率的で低コストな哺育育成システムを構築します。

○畜産バイオマスを活用した新たなエネルギー回収技術の検討（新規）

メタン発酵法によるバイオマス発電において、家畜排泄物とその他未利用有機性廃棄物を組み合わせ、メタンガス発生量を増加させるとともに、電気や熱エネルギーの回収効率を高めるために、水素発酵を取り入れるなどして、新たなエネルギー回収技術の可能性を検討します。

平成20年度の岡山県畜産施策の推進方針、主要事業は以上のとおりですが、これらの施策を円滑に推進し、効果の高いものとするため、引き続き関係者の皆様方の御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。